

FlexVPN クライアント ブロックによる冗長ハブ設計での FlexVPN スポークの設定例

目次

- [概要](#)
- [前提条件](#)
- [要件](#)
- [使用するコンポーネント](#)
- [背景説明](#)
- [設定](#)
- [ネットワーク構成図](#)
- [トランスポート層 ネットワーク](#)
- [オーバーレイ ネットワーク](#)
- [スポークとハブの基本設定](#)
- [スポークの設定の調整](#)
- [スポークの設定：クライアント設定ブロック](#)
- [完全なスポークの設定：参照用](#)
- [ハブの設定](#)
- [スポークのアドレス](#)
- [ハブのオーバーレイ アドレス](#)
- [ルーティング](#)
- [ネットワーク集約の使用](#)
- [スポーク間トンネル](#)
- [確認](#)
- [トラブルシューティング](#)
- [関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、複数のハブを使用できるシナリオで、FlexVPN クライアント設定ブロックを使用して、FlexVPN ネットワーク内にスポークを設定する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識が推奨されます。

- FlexVPN
- Cisco のルーティング プロトコル

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco G2 シリーズのサービス統合型ルータ (ISR)
- Cisco IOS® バージョン 15.2M

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

背景説明

冗長性のために、スポークを複数のハブに接続することが必要になる場合があります。スポーク側の冗長性によって、ハブ側でのシングルポイント障害の発生しない継続的な運用が可能になります。

スポークの設定を使用する最も一般的な 2 つの FlexVPN 冗長ハブ設計は、次のとおりです。

- **2 つのクラウド アプローチ** : スポークに、両方のハブに常にアクティブな 2 つの別のトンネルがある。
- **フェールオーバー アプローチ** : スポークに、任意の時点で 1 つのハブを持つアクティブなトンネルがある。

両方のアプローチに特有の長所と短所がいくつかあります。

アプローチ	長所
2 つのクラウド	<ul style="list-style-type: none">• 障害時の迅速なリカバリ (ルーティング プロトコル タイマーに基づく)• ハブ間のトラフィックを配信する可能性がより高い (両方のハブへの接続がアクティブ)
フェールオーバー	<ul style="list-style-type: none">• 設定が容易 (FlexVPN に組み込まれる)• 障害時にルーティング プロトコルに依存しない

このドキュメントでは、2 番目のアプローチについて説明します。

設定

注: このセクションで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) (登録ユーザ専用) を使用してください。

ネットワーク図

次の各図には、トランスポートとオーバーレイのトポロジ図の両方が示されています。

転送ネットワーク

次の図は、FlexVPN ネットワークで通常使用される基本のトランスポート ネットワークを示しています。

オーバーレイ ネットワーク

次の図は、フェールオーバーの動作方法を示す論理的な接続を使用してオーバーレイ ネットワークを示しています。通常の動作中は、Spoke 1 と Spoke 2 は 1 つのハブとだけの関係を維持しています。

注: 図では、緑の実線はプライマリ インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) /Flex セッションの接続と方向を示し、青の点線はプライマリ ハブへのインターネット キー エクスチェンジ (IKE) のセッションで万一障害が発生した場合のバックアップ接続を示しています。

/24 のアドレス指定は、実際のインターフェイスのアドレス指定ではなく、このクラウドに割り当てられているアドレスのプールを表しています。これは、FlexVPN ハブでは、通常スポークのインターフェイスにダイナミック IP アドレスを割り当て、FlexVPN の許可ブロックに route コマンドで動的に挿入されたルートに依存するためです。

スポークとハブの基本設定

ハブ アンド スポークの基本設定は、Dynamic Multipoint VPN (DMVPN) から FlexVPN への移行のドキュメントに基づいています。この設定は、[「FlexVPN の移行：同じデバイスでの DMVPN から FlexVPN への完全移行」](#)という記事で説明されています。

スポークの設定の調整

スポークの設定：クライアント設定ブロック

スポークの設定は、クライアント設定ブロックによって拡張する必要があります。

基本設定では、複数のピアを指定します。最も高いプリファレンス (最も低い数値) のピアが他のものよりも優先されます。

```
crypto ikev2 client flexvpn Flex_Client
peer 1 172.25.1.1
peer 2 172.25.2.1
client connect Tunnell
```

トンネル設定は、トンネルの宛先を FlexVPN のクライアント設定ブロックに基づいて動的に選択できるように、変更される必要があります。

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

FlexVPN のクライアント設定ブロックは、インターフェイスに結び付けられ、IKEv2 にも IPsec (Internet Protocol Security) のプロファイルにも結び付けられないことを覚えておくことが重要です。

クライアント設定ブロックには、フェールオーバー時間と動作を調整するための複数のオプションが用意されており、オブジェクトのトラッキングの使用、ダイヤル バックアップ、バックアップグループなどの機能があります。

基本設定によって、スポークでは、DPD を使用してスポークが応答しなくなっていないかどうかを検出し、ピアがデッドと宣言された場合に、変更をトリガーします。DPD を使用するオプションは、DPD の動作方法のせいで、即効性のあるオプションではありません。管理者は、オブジェクトトラッキングまたは同様の拡張を使用して設定を拡張することができます。

詳細については、このドキュメントの最後の「[関連情報](#)」の項にリンクが記載されている Cisco IOS の構成ガイドの「[FlexVPN クライアント設定](#)」の章を参照してください。

完全なスポークの設定：参照用

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

ハブの設定

ハブの設定も大部分は同じですが、いくつかの設定を行う必要があります。行う設定のほとんどは、1 つ以上のスポークが 1 つのハブに接続されているが、他のスポークは別のハブと関係しているような状況に関連しています。

スポークのアドレス

スポークでは IP アドレスをハブから取得するため、ハブで、別個のサブネットのアドレス、または 1 つのサブネットの異なる部分を割り当てるのが通常望ましいです。

次に、例を示します。

ハブ 1

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

ハブ 2

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

これにより、トラブルシューティングを妨げることがある、アドレスが FlexVPN クラウドの外部にルーティングされない場合でも、アドレスの重複生成が発生しなくなります。

ハブのオーバーレイ アドレス

両方のハブで、仮想テンプレート インターフェイスに同じ IP アドレスを保持できます。ただし、この設定はトラブルシューティングに影響を与える可能性があります。この設計の選択により、スポークには Border Gateway Protocol (BGP) のピアのアドレスを 1 つだけ保持する必要があります。そのため、導入と計画が行いやすくなります。

場合によっては、オーバーレイ アドレスが望ましくないか、または不要ことがあります。

ルーティング

各ハブでは、接続されているスポークに関する情報を交換する必要があります。

各ハブでは、接続されたデバイスの特定のルートを交換でき、またスポークに集約も提供できる必要があります。

FlexVPN および DMVPN による iBGP を使用することを推奨しているため、そのルーティング プロトコルだけが示されています。

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

```
interface Tunnell
 tunnel destination dynamic
```

この設定によって、次のことが可能になります。

- スポークに割り当てられたアドレスからのダイナミック リスナー
- 192.168.0.0/24 のネットワークのアドバタイジング
- すべてのスポークへの 192.168.0.0/16 という集約ルートのアドバタイジング。集約アドレスの設定が、null0 インターフェイスを介したそのプレフィックスのスタティック ルートを作成します。このルートは、ルーティング ループを防ぐために使用される廃棄ルートです。
- もう一方のハブへの特定のプレフィックスの転送
- 各ハブが相互の間で、スポークから取得した情報を交換するようにするためのルート リフレクタ クライアント

次の図は、ハブの 1 つから見た場合の、この設定での BGP のプレフィックス交換を表しています。

注: この図では、緑の線はスポークによってハブに提供される情報を表し、赤い線は各ハブによってスポークに提供される情報 (集約のみ) を表し、青い線はハブ間で交換されるプレフィックスを表しています。

ネットワーク集約の使用

集約は、シナリオによっては適切でないか、または望ましくない場合があります。iBGP ではネクスト ホップがデフォルトではオーバーライドされないため、プレフィックスで宛先 IP を指定する場合は注意してください。

集約は、状態が頻繁に変更されるネットワークで推奨されます。たとえば、状態が変更されやすいインターネット接続では、プレフィックスの削除と追加の回避、更新回数の制限、ほとんどの設定の適切なスケーリングの可能化を行うために集約が必要になる場合があります。

スポーク間トンネル

前の項で説明したシナリオと設定では、異なるハブのスポークは直接のスポーク間トンネルを確立できません。異なるハブに接続されたスポーク間のトラフィックは、中央の各デバイスを超えてフローします。

この問題には簡単な回避策があります。ただし、同じネットワーク ID の Next Hop Resolution Protocol (NHRP) をハブ間で有効にする必要があります。これは、たとえばハブ間でポイントツーポイントの Generic Routing Encapsulation (GRE) トンネルを作成した場合に実現できます。こうすれば、IPsec は不要になります。

確認

特定の show コマンドが [アウトプット インタープリタ ツール \(登録ユーザ専用 \)](#) でサポートされています。show コマンド出力の分析を表示するには、アウトプット インタープリタ ツールを使用します。

show crypto ikev2 sa コマンドでは、スポークが現在接続されている場所について報告します。

show crypto ikev2 client flexvpn コマンドを使用すれば、管理者は FlexVPN クライアントの動作の現在の状態が分かります。

```
Spoke2# show crypto ikev2 client flexvpn
```

```
Spoke2# show crypto ikev2 client flexvpn
```

show logging の設定を使用したフェールオーバーが正常に終了すると、スポーク デバイスに関する次の出力がログに記録されます。

```
Spoke2# show crypto ikev2 client flexvpn
```

この出力では、スポークがハブの 172.25.1.1 から切断され、Flex_Client のクライアント設定ブロックによって障害が検出され、トンネルがアップする 172.25.2.1 に強制的に接続され、スポークに 10.1.1.177 の IP が割り当てられます。

トラブルシューティング

特定の show コマンドが [アウトプット インタープリタ ツール \(登録ユーザ専用 \)](#) でサポートされています。show コマンド出力の分析を表示するには、アウトプット インタープリタ ツールを使用します。

注: [debug](#) コマンドを使用する前に、『[debug コマンドの重要な情報](#)』を参照してください

。

関連する debug コマンドを下に示します。

- debug crypto ikev2
- debug radius

関連情報

- [FlexVPN およびインターネット キー エクスチェンジ \(IKE\) バージョン 2 コンフィギュレーション ガイド、Cisco IOS リリース 15M&T](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)